



The Doshisha Political Science Department

# Manual of Style

政治学科の学生のためのレポート作成の手引き

Version: 2011

Copyright (c) 2011 by Doshisha University Political Science Department

## ■はじめに

政治学科でみなさんが過ごす4年間に、多くのレポートを作成していただくこととなりますが、その際の約束事・注意事項をまとめたのが、この小冊子「Manual of Style」です。政治学科の学生としての「マナー(スタイル)」を最初に知っていただくために用意しました。ぜひ活用してください。

なお、ここで示すのは、1つの標準(スタンダード)です。分野によって、スタイルは異なります。ですから、各授業におけるレポート・論文の提出の際には、担当の先生の個別の指示に従ってください。たとえば、国際関係論の分野の場合は、日本国際政治学会の執筆要領にしたがうことが慣例です(執筆要領の「五 注表記」参照)<ここをクリックして要領を表示>。

このマニュアルは、次の3つのセクションで構成されています。

- ・ レポートの書式
- ・ 「引用文献リスト」の作成
- ・ レポート提出の際の注意

同志社大学法学部  
政治学科



## ■レポートの書式

レポート・論文は、すべてA4用紙(縦長)にワープロで用意してください。  
その際:

- ・横書きで、1ページあたり「40字 x 30行」で設定してください。
- ・学籍番号(13から始まる全番号)・氏名を用紙右上に記入してください。

MS Wordのテンプレート(ひな形)を用意しています。活用してください。テンプレートのダウンロードは<ここをクリック>。

## ■「引用文献リスト」の作成

レポートを作成する場合、先行研究を参考にすることがしばしばありますが、具体的な言葉・文言・文章を引用した場合、あるいは、アイデアを借用した場合には、その出典(誰の言葉か・誰のアイデアか)を明記する必要があります。※ 引用の表記と引用文献リストの作成にあたっては、次のルールに従ってください。

※なお、参考のために読んでみたが、そのレポートの内容に関連する事柄が見あたらなかった場合、つまり、言葉やアイデアを具体的に「引用」しなかった文献については、「引用文献リスト」には含めません。

## □本文中の表記方法

引用箇所は、本文中にカギ括弧(「 」)でくくって記載します。その上で、その直後(引用を含む文の最後)に、どこから引用したか(出典)を、次の例の要領で明記します:

### ・基本形

……。政党支持の研究者である三宅一郎も、「政党支持という言葉には、……評価という意味が、少し強いように感じられる」と指摘している(三宅 1989, 110)。……

この例では、「政党支持という言葉……」という三宅の一文は、三宅一郎が1989年に著した『投票行動』という本の、110ページに書かれていることが、「(三宅 1989, 110)」で示されています。

なお、三宅が1989年に書いた本が、『投票行動』であることは、ここからはわかりません。書名は、論文の最後に用意した「引用文献リスト」から、著者名と発行年を頼りに探すことになります。

### ・具体的な引用のない場合

また、具体的な言葉・文言の引用ではなく、アイデアの借用の場合などは、必ずしも具体的な引用箇所がなく、したがって、カギ括弧でくることができません。それでも、それは広義の「引用」ですから、やはり上記の要領で出典を明記する必要があります。たとえば、次のような場合です:

……。政党支持の研究者である三宅一郎も、政党支持の概念について、そこに「評価」の側面が含まれていると、同様な指摘をしている(三宅 1989, 110)。……

#### ・著者が複数・複数の引用の場合

引用した図書が複数の著者による場合、あるいは、複数の文献からアイデアを借用した場合などは、文末の( )内に、次のように表記します:

……。政党支持概念については、三宅をはじめ多くの研究者が、その重要性を指摘している(三宅・木下・間場 1967, 三宅 1989)。そして、…

#### □引用文献リスト

レポート・論文の最後に「引用文献リスト」を用意します。リストの書式については、次のルールに従ってください。

- ・ 著者名のアルファベット順に並べる。
- ・ 同一著者については、出版年の若いものから順に並べる。
- ・ 注の中で引用をすることもあるので、「引用文献リスト」は「注」の後に配置します。つまり、レポートは、1) 本文、2) 注、3) 引用文献リストの順に、3つのセクションで構成されます。※

※「注」は、本文の内容を補足するような記述を、本文の後に集めて書いたものです。本文で言及すべきか、注に記載すべきかの判断は、簡単ではありません。本文をより深く理解するのに助けとなる情報だが、仮にそれが本文になくても、本文の趣旨が問題なく伝わると考えた場合には、それは「注」として扱い、本文にはいれません。

- ・ その文献の形態(和書か洋書か・論文か単行本か・著者が一人か複数か・翻訳であるかそうでないかなどの違い)によって、記されるべき情報の種類が異なります。以下にそのルールを、形態ごとに説明します。それぞれ、必要な項目と記載順を整理したのが網掛けの部分です。項目ごとの「具体例」は、この節の最後にある「引用文献リスト」例に対応しています。

#### A. 書籍

- 著者名 出版年. 『書名』 出版社.
- Author(s). Year. *Book Title*. Place: Publisher.

注: 書名について、和書は『 』に入れ、洋書はイタリックで記す。

具体例(5ページの「引用文献リスト例」): 川喜田 1967 Dahl and Tufte 1973

## B. 編著

- 編著者名 + 「編」 出版年. 『書名』 出版社.
- Editor(s)., ed(s). Year. *Book Title*. Place: Publisher.

注: 洋書では、編集者名の後に「, ed.」をつけます。編者が複数の場合は「, eds.」となります。

具体例: 朝日新聞選挙本部編 1980 Tilly 1975

## C. 論文

- 著者名 出版年. 「論文題」 『掲載雑誌名』 xx号, nn-nn.
- Author(s). Year. "article title." *Journal Title* vol, nn-nn.

注: nn-nn は最初と最後のページ番号。洋書では、” ”内のタイトルの後にも「.」、vol は巻番号。

具体例: 蒲島 1986 Petrocik 1974

## D. 編著書の章

- 著者名 出版年. 「論文題」 編・著者名 + 「編」 『書名』出版社 所収.
- Author(s). Year. "chapter title." In *Book Title*. Edited by Editors. Place: Publisher.

注: 和文の場合、「所収」で終わる。洋書については、「In, Edited by」に注意。

具体例: 蒲島 1986 Jackson 1975.

## E. 学会発表論文

- 著者名 出版年. 「論文題」 学会についての説明.
- Author(s). Year. "title." Paper prepared for a delivery at . . . .

具体例: 西澤 1992 Kato 1994

## F. 翻訳書

- 原著者名 原著出版年. 『訳書名』 訳者名 + 「訳」 訳書出版社 訳書出版年.
- Auther(s). Year. *Book Title*. Place: Publisher, 訳者名 + 「訳」 『訳書名』 訳書出版社 訳書出版年.

注: 洋書については、翻訳書がある場合は、それについての情報も記入する。

具体例: ジョンソン・リーバート 1977 Dahl 1961

## G. Web サイト

- サイト管理責任者名 + 「編」 アクセス年. URL: アドレス, アクセス年月日 + 「参照」.

具体例: 同志社大学法学部政治学科編 2010

## □「引用文献リスト」例

### 引用文献リスト

- 朝日新聞選挙本部編 1980.『選挙大観—第35回総選挙・昭和54年10月—』朝日新聞社.
- Dahl, Robert A. 1961. *Who Governs? Democracy and Power in an American City*. New Haven: Yale University Press, 河村望・高橋和宏訳『統治するのはだれか』行人社 1988.
- Dahl, Robert A. and Tufte, Edward R. 1973. *Size and Democracy*. Stanford: Stanford University Press.
- 同志社大学法学部政治学科編 2010. URL:<http://law.doshisha.ac.jp/polsci/>. 2010年6月1日参照.
- Jackson, John E. 1975. "Issues and party alignment." In *The Future of Political Parties*. Edited by Louis Maisel and Paul M. Sacks. Beverly Hills, Calif.: Sage.
- ジョンソン, K, M. リーバート, M, R. 1977.『統計の基礎—考え方と使い方—』西平重喜・村上征勝訳 サイエンス社 1981.
- 蒲島郁夫 1986.「争点・政党・投票」綿貫譲治・三宅一郎・猪口孝・蒲島郁夫編『日本人の選挙行動』東京大学出版会 所収.
- 蒲島郁夫 1992.「89年参院選—自民大敗と社会大勝の構図」『レヴァイアサン』10号, 7-31.
- Kato, Junko. 1994. "Exit, voice, and loyalty of legislative party members: The impact of intraparty conflict on the Japanese party system." Paper prepared for a delivery at the 1994 Annual Meeting of American Political Science Association, New York, September 1-4, 1994.
- 川喜田二郎 1967.『発想法』中央公論社.
- 三宅一郎 1989.『投票行動』東京大学出版会.
- 三宅一郎・木下富雄・間場寿一 1967.『異なるレベルの選挙における投票行動の研究』創文社.
- 西澤由隆 1992.「経済政策に対する業績評価としての自民党支持率」1992年度日本政治学会研究会報告論文.
- Petrocik, John R. 1974. "An analysis of intransitivities in the index of party identification." *Political Methodology* 1, 31-47.
- Tilly, Charles, ed. 1975. *The Formation of National States in Western Europe*. Princeton: Princeton University Press.

レポート・論文の提出方法には3とおりあります。

1. 教室で担当者に直接に提出

- a. レポート・論文の枚数が2ページ以上の場合は、必ず「左上隅」をホチキス止めする。
- b. 次の「表紙(大学HPからダウンロード可)」を使う必要があるかどうかは、担当者に確認のこと。

大学指定の「レポート表紙」

大学指定の「レポート表紙」のフォーマットは、以下の通りです。

1. 左上隅にホチキス止めをする。  
 2. レポートは表裏を合わせて提出する。  
 3. レポートは表裏を合わせて提出する。  
 4. 学号を記入し、レポートと学号を一致させる。

学 期: \_\_\_\_\_ 科 室: \_\_\_\_\_

学 部: \_\_\_\_\_ 学 科: \_\_\_\_\_

学 生ID: \_\_\_\_\_ 氏 名: \_\_\_\_\_

提出日: 20\_\_年\_\_月\_\_日

印刷  電子

記入欄はすべてペン書（鉛筆記入では提出不可）

レポート受領書(本人控)

学 部: \_\_\_\_\_ 学 科: \_\_\_\_\_

学 生ID: \_\_\_\_\_ 氏 名: \_\_\_\_\_

提出日: \_\_\_\_\_

記入欄はすべてペン書（鉛筆記入では提出不可）

なお、「レポート表紙」は、次のURLからダウンロードができます(2011.04.05現在)。  
<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/report.pdf>  
<http://www.doshisha.ac.jp/students/curriculum/shiken.php>

2. 教務事務室・学部事務室に提出

- a. 「表紙(大学HPからダウンロード可)」を使って、指示どおりホチキス止めする。

3. e-mailで、添付ファイルとして担当者に提出

- a. メールの本文中と添付ファイルの両方に、学籍番号・氏名・講義名・課題名を明記する。
- b. あわせて、メールの「標題(件名)」欄にも、学籍番号・氏名・講義名・課題名を明記する。
- c. 多数のファイルを受信する担当者の便宜に配慮して、ファイル名を決めること。たとえば: 「政治参加と選挙\_西澤由隆\_課題1.doc」・「政治行動論\_13013521\_nishizawa\_17Jul10.doc」など。